

ちょっと待って！ ケータイ&スマホ



ネットで起きていることをよく知らないままケータイやスマホをはじめるのは、ちょっと待って！
まずは6つの事例を読んで、ケータイやスマホを使う目的をしっかりと考えよう。

1 ちょっと待って、その書き込みはだいじょうぶ？

悪口やいじめやウソの書き込みをすると、どうになってしまうのか。

ネットいじめは、人としてカッコ悪いこと

たくさんの人が見ることができるネットに、悪意のある書き込みや投稿をするとどんなことになるのだろう。短期間で極めて深刻になる場合もあるし、相手に大きな苦痛を与え、その人の人生も変えてしまうような事態になることも。自分のことが書かれていたらどういう気持ちになるか考えてみよう。

他の書き込みを組み合わせれば、個人がわかってしまうことも

自分のやったことだと分からないだろうと思っても、複数のサイトのプロフィール情報、ページのリンク先や検索結果等から個人がある程度わかることがある。また、誰のしわざか気づいている人がネットに書き込み、バレしてしまうことも多い。警察が調べなくてもこうやって個人がわかることがあり、次はやられる側になってしまうことも。もちろん、警察が調べればもっと個人が特定できる。考えてみて！ネットは通信記録が残っているから、メールを集中して送ったり、掲示板で悪口を書いたり、悪質な画像を掲載したりする人を追跡できるんだ。大変なことになる前に気がつかなきゃね。誰がやったのかばれないなんてありえない！

■ ネットの発言も罪になる

姿が見えないからといって「言いつばなし」は通用しない。たとえ面白半分のもつもりでも、多くの人が見て騒ぎになるような投稿や書き込みは犯罪になり、未成年者でも逮捕されている。例えば、特定の個人への悪口や中傷は、「名誉毀損罪」や「侮辱罪」などの対象になる。

■ 中学生がいじめ暴行の動画投稿 2012年7月

中学2年の男子生徒4人が、同級生の男子生徒2人に対し、お互いに殴り合ったり蹴り合ったりさせ、うち1人がその映像を2人の実名を入れたタイトルで動画投稿サイトに投稿した。学校はいじめと判断して4人を指導し、動画を削除させた。

■ 中学生がネットの掲示板で犯行予告 2011年2月

ネットの掲示板に「新宿駅バス乗り場近くで通り魔を起こす」などと書き込んだ男子中学生を威力業務妨害で逮捕。近所のスーパーのネット回線を利用し、携帯型ゲーム機を使って書き込みしていた。「1人でやった。どのくらい騒がれるのかわかっていた」と容疑を認めている。警察は、解析で書き込みをした位置を特定し警戒を続け、捜査員が男子生徒を発見した。

